次期学習指導要領 教科別まとめ　小学校 No.07

審議まとめ（2026年10月5日）を**小学校の先生向け**にまとめ直しました

小学校版



家庭

次期学習指導要領で、どう変わる？

領域を5つに再編し、中学校では独立した教科に



10秒でいうと　領域を「家族・家庭と生涯発達」「食生活」など5つに再編。「住まいの主な働き」は高校へ

やさしく言うと

家庭科の領域は、小・中・高を通して5つに再編する方向です。「家族・家庭と生涯発達」「生活の経営と消費生活」「食生活」「衣生活」「住生活」（いずれも仮称）です。小学校の「住まいの主な働き」は高校へ移す方向です。小・中学校では、問題解決的な学習の課題を教師が決めてしまう現状が課題とされています。子供が自分で生活の課題を見つける学習を充実させる方向です。

小学校はいつから？

全面実施	**2030年度（令和12年度）から（見込み）**
移行期間	2028～2029年度
告示	2026年度末の予定
教科書	2030年度から新しい教科書（2028年度に検定）

この冊子の中身

1 家庭のポイント	4つ	2 主な変更点	4項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）	4項目	4 授業時数	
5 生成AI・ICTとの付き合い方	3項目	6 今からできる準備チェックリスト	5項目
7 次期を先取りする授業アイデア	1本	8 現行の学習指導要領・解説（小学校）	

無料　原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

家庭の3行要約（全校種）

1. 中学校の技術・家庭科は「情報・技術科」と「家庭科」に分ける方向で、家庭科は独立した教科として新しい目標が検討されます。
2. 小・中・高を通して、領域が「家族・家庭と生涯発達」「生活の経営と消費生活」「食生活」「衣生活」「住生活」（いずれも仮称）の5つに再編する案で、一部の内容は学校段階をまたいで移す方向です。
3. 高校では、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動が各領域の中の「生活の課題と実践」（仮称）とし、「家庭総合」には領域を貫く「総合生活実践」（仮称）を加える案です。

※5領域の名称、「生活の課題と実践」、家庭総合のF領域「総合生活実践」は仮称。

1 家庭のポイント

4つ

1 領域を5つに再編

領域を「生活の基盤」と「生活を構成する要素」の2つの観点から整理し、5つにする方向です。基盤は「家族・家庭と生涯発達」「生活の経営と消費生活」、要素は「食生活」「衣生活」「住生活」です（いずれも仮称）。並びは、食育の重要性などから「食・衣・住」の順とされています。P225 P230

授業では、たとえば 今の年間計画を新しい5つの領域で色分けし、どの題材がどこに当たるかを確かめておく、といった準備が考えられます。

2 布を用いた製作は「基礎」として整理

小学校の「生活を豊かにするための布を用いた製作」は、新しいD領域で整理する例が示されています。名前は「布を用いた製作の基礎」です。布を用いた製作は、小・中・高のつながりをふまえ、知識と技能を段階的に身に付けて使う内容とする方向です。P226 P232

授業では、たとえば 袋づくりでミシン縫いの基礎を学んだあと、自分の生活で使う場面を考えて大きさや形を決める、といった題材が考えられます。

3 「住まいの主な働き」は高校へ

小学校の「住まいの主な働き」は、全体のつながりを見直す中で、最も効果的に理解できる高校に移す方向です。中学校の「家庭内事故の防ぎ方」も高校へ移す方向です。社会の変化に合わせて内容を充実させつつ、全体の量は増やさず、精選を図る考え方が示されています。P225 P227

授業では、たとえば 住生活の題材計画を点検し、高校へ移る見込みの内容の時間を、ほかの実践にどう充てるか考えておく準備が考えられます。

4 課題を子供が見つける学習と、新しい評価

小・中学校の問題解決的な学習では、教師主体の課題設定になっている現状が指摘されています。課題を見つけて解決する力を一層育てる方向です。評価では「学びに向かう力」を個人内評価で見取り、「見取る姿」が続けて見られたら「思・判・表」に「○」を付ける方向です。 P223 P233

授業では、たとえば 家での1週間の食事をふり返り、子供自身が「朝食に野菜を足したい」などの課題を立てて調理計画を作る授業が考えられます。

2 主な変更点

4項目

1. 小 中 高 領域をA〜Eの5つに再編（「家庭総合」はFを加えて6つ）

「生活の基盤」に関する領域として「A 家族・家庭と生涯発達（仮称）」（人に関すること）と「B 生活の経営と消費生活（仮称）」（暮らしの営み方＝マネジメント）を置く案です。「生活を構成する要素」に関する領域として「C 食生活（仮称）」「D 衣生活（仮称）」「E 住生活（仮称）」を置き、食育の重要性も踏まえて「食・衣・住」の順に並べる案です。生涯の生活設計と消費生活はB領域で関連付けて扱い、消費者教育や金融経済教育もBに明示する方向です。 P225 P230 P231

2. 小 中 高 内容の移管・統合：住まいの働きや家庭内事故は高校へ、金銭管理は中学校へ

小学校の「住まいの主な働き」と中学校の「家庭内事故の防ぎ方など」は、最も効果的に理解できる高校へ移す方向です。中学校の「金銭の管理と購入」と「消費者の権利と責任」は新しいB領域でまとめ、消費と環境を一体的に学ぶ方向です。高校「家庭総合」にあった「生活の営みに必要な金銭」と「生活時間などの生活資源」は、中学校のB領域「家庭生活と生活資源のマネジメント」に移す方向です。中学校の住生活では、間取り図などで家全体の危険を見付けて対策を考え、家庭で実践する流れを丁寧に行う方向です。 P226 P227 P232

3. 小 中 高 布を用いた製作・衣服の再利用の扱いを整理

小学校の「生活を豊かにするための布を用いた製作」は新しいD(2)「布を用いた製作の基礎」に、中学校の同じ項目はD(2)「生活を豊かにする布を用いた製作」に整理する案です。布を用いた製作は、小・中・高のつながりを踏まえ、知識・技能を段階的に身に付けて活用する内容とする方向です。中学校の「衣服等の再利用の方法」は、衣服のライフサイクルを意識した選択・活用の一つとして、必要に応じて製作の学習で取り入れる方向です。 P226 P232

4. 評価：「学びに向かう力」は「見取る姿」で個人内評価、「思・判・表」に「○」

「学びに向かう力」については、「初発の思考や行動・好奇心」「学びの主体的な調整」「対話や協働」の3要素からなる「見取る姿」を示す予定です。教師は思考・判断・表現の学習過程の中で、これらの姿が続けて発揮されているかを見取り、見取れた場合は「思・判・表」に「○」を付けて一体的に評価します。この部分は個人内評価（他者と比べない評価）として扱う方向です。 P233

3 現行と次期の比較（新旧対照）

4項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
「家庭総合」の履修年次	複数年次に分けて履修する場合は原則として連続する2か年。内容のCは原則として入学年次とその次の年次の2か年のうちに取り上げる。	連続2か年の規定を見直し、隔年での実施なども可能に。2か年のうちに取り上げる規定は**B領域**（生活の経営と消費生活）として明記。 P224 P228

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
「家庭基礎」と「家庭総合」の違い	科目の目標や学習内容に明確な差異が見いだしにくく、教科書の記述にも大きな差がない。	家庭基礎＝生活を営み家庭や地域の生活を「支える」力、家庭総合＝**多面的**に生活を捉え家庭や地域の生活を「向上させる」力を育てる科目として趣旨を明確化。 P224 P227
見方・考え方	「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」等の事項を示していた。	家庭科の**本質に焦点化**して短く示し、**小・中・高で統一**。上記の要素は「統合的な理解・総合的な発揮」の中で内容に即して示す。 P229
住まいの働き・家庭内事故の防ぎ方	小学校B(6)ア(ｱ)「住まいの主な働き」、中学校B(6)ア(ｲ)「家庭内事故の防ぎ方など」で扱う。	**高校へ移管**。家庭内の事故の防ぎ方は高校の「**ライフステージに応じた住生活**」で重点的に学ぶ。 P227 P232

4 授業時数

中学校で独立させる方向の家庭科の時数は本文に示されていない（総論では、小3以上の教科等から一律3～4%程度を減じるが現在35コマ以下の教科等からは減じず、具体の数値は今後示すとしている。P79）。高校の家庭基礎は、必履修教科ごとの合計が3新単位以下となる減単が不可のため減単不可とすべきとされた（P47）。家庭総合は「連続する2か年」の履修規定を見直す方向（P228）。

5 生成AI・ICTとの付き合い方

3項目

1. 生成AIなどの特性をふまえた情報収集・活用
集めた情報から考え、根拠を持って自分の考えを他の人に伝えるためには、生成AIなどの特性をふまえた適切で有効な情報収集・活用が求められるとされています。デジタル技術の操作そのものを目的にせず、実践的・体験的な活動を通して力を育てる観点で活用を考えます。 P225

2. 家庭科のAI活用の基本的な考え方
子供が自分で考え、判断し、成果物を自分の言葉で説明し、最終的に自分で責任を持つという考えのもと、教師は問題解決的な学習を展開し、評価方法を改善することが当面の基本的な考え方とされています。 P233

3. 1人1台端末を問題解決的な学習の基盤に
端末を問題解決的な学習に必要な学習基盤として位置付けるとされています。例として、調理や製作の様子を動画で撮って分析する、実践の前後を画像で比べる、3Dで住まいの間取りを計画する、が挙がっています。資料編には、AIを活用した情報の収集・整理や、AIを活用した客観的な評価の例も示されています。 P233 資料編(2)P122

6 今からできる準備チェックリスト

5項目

- [ ] 今すぐ 題材の課題設定が先生主導になっていないか点検し、子供が自分の生活を見つめて問題を見いだし、課題を設定する時間を各題材に入れます。 P223
- [ ] 今すぐ 調理や製作の様子を動画で撮って分析する、実践の前後を画像で比べる活動を1つの題材で試し、撮影範囲（手元だけなど）や撮ったデータの扱いのルールもあわせて決めます。 P233
- [ ] 今すぐ 生成AIを使う場面を設けるときは、子供が自分で考え判断し、成果物を自分の言葉で説明し、最後は自分で責任を持つことを条件にし、その説明を評価する方法も決めておきます。 P225 P233

- [ ] 告示まで 今の年間指導計画の題材を、新しい5領域（家族・家庭と生涯発達／生活の経営と消費生活／食生活／衣生活／住生活、いずれも仮称）に振り分け直し、移される内容（小学校の「住まいの主な働き」と中学校の「家庭内事故の防ぎ方など」は高校へ、高校の金銭・生活時間などの生活資源は中学校へ）を確認します。P225 P227 P230

- [ ] 全面実施まで 「学びに向かう力」の見取る姿の3要素（初発の思考や行動・好奇心／学びの主体的な調整／対話や協働）を手掛かりに、思考・判断・表現の過程で姿を記録する方法を試し、「○」を付ける評価に備えます。P233

7 次期を先取りする授業アイデア

1本

小5 1単位時間（45分）

手元を撮って比べよう！なみ縫いのコツ発見

10秒の手元動画をペアで見比べ、縫い目がそろう「手の動き」を自分たちで見付けます。

手順・ワークシート

ねらい

なみ縫いの手元を撮影して見比べ、縫い目をそろえるための布の持ち方や針の運び方のコツに気付き、それを生かして縫い直すことで、自分の上達を確かめる。

流れ

- 5分 安全の確認をします。針ケースの針の本数を数えて記入し、使っていない針は必ず針山に刺すこと、端末は机の奥、針と布は手前と置き場所を分けることを全員で確かめます。
- 8分 1本目の線に沿って5cmなみ縫いをします。ペアの相手が、手元だけが映るように10秒ほど撮影し、交代します。縫い終わった布は端末で撮影して保存します。
- 10分 ペアで自分たちの動画をゆっくり再生して見比べ、縫い目がそろっている部分とそろっていない部分で、布の持ち方、針を出す向き、一度に進める針目の数などがどう違うかを探します。気付いたことを付箋に書きます。
- 7分 付箋を出し合い、先生が見本動画を拡大して確かめながら、学級の「なみ縫いのコツ」を3つ程度にまとめて板書します（例：布を少しずつたぐる、針を布に対してまっすぐ出す、縫い目を指でしごいて整える）。
- 10分 自分が一番取り入れたいコツを1つ選び、2本目の線でもう一度縫います。縫い終わったら撮影し、前後比較シートに1回目と2回目の写真を並べてはり、変わったところを書きます。
- 5分 針の本数を数えて最初と合っているかを確かめてから片付けます。動画は学習用フォルダに保存し、授業後に先生が整理することを伝えます。

評価

知識・技能は、2回目の縫い目がそろってきているかと、コツを理由とともに説明できるかで見取ります。思考・判断・表現は、動画を見比べて縫い目の違いと手の動きを結び付けて考えているかを付箋とシートで見ます。1回目を振り返って自分でコツを選び、試して比べている姿は「学びの主体的な調整」の手掛かりとして記録し、題材を通して続けて見られたときに思考・判断・表現に「○」を付ける評価に生かします。

8 現行の学習指導要領・解説（小学校）

PDF **小学校学習指導要領（平成29年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf

PDF **小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編**
https://www.mext.go.jp/content/20240918-mxt_kyoiku01-100002607_02.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

ご利用について

サイトで最新版を見る

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P○ は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P○** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）